

【参考】

表紙部分及び切手部分には、四季折々渡り鳥の飛来地である藤前干潟の風景とハマシギをはじめとした藤前干潟に集まる野鳥たちをデザインとして採用しています。

●藤前干潟で憩う野鳥たち



協力：NPO法人 藤前干潟を守る会



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金控付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。



●ポストカード付台紙 (A4 サイズ)
(裏面)

藤前干潟の野鳥

藤前干潟では1年を通じて、たくさんの野鳥が観察できます。その代表的なものとしてシギ・チドリ類です。シギ・チドリ類は長いものでは、北はアラスカ・シベリアから、南はオーストラリア・ニュージーランドまで、片道12000kmにおよぶ、たいへん長い渡りをするので知られています。北のアラスカ・シベリアは繁殖地、南のオーストラリア・ニュージーランドは越冬地となっています。春に北上、秋に南下し、その途中で日本、韓国、中国など東アジア沿岸部の干潟に飛来します。

その他の渡り鳥としては、北のシベリア、中国などから越冬のために渡ってくるカモ類やカイツブリの仲間、初夏に子育てのために東南アジアから渡ってくるコアジサシ、カワウ、ミサゴなど藤前干潟周辺で1年を通じて過ごす鳥たちもいます。

ハマシギ 藤前干潟を代表する渡り鳥。羽長30cmの小形のシギの仲間。藤前干潟には秋に渡ってきて翌年の春まで越冬する。群れで行動し、飛びながら一斉に声を発する。そのとき羽の動きを反映してミサゴやシギなどに見えなくとも、羽の動きや声などから見分けられる。干潟をわんわんつぎまわり、ゴカイなどを食べる。	スズクモ 羽長46cmのカモの仲間。藤前干潟には秋に渡ってきて翌年の春まで越冬する。オスは頭から腹と足指が黒色のツヤな体色で特徴。メスは全身茶色の体色をしている。大きな群れを作り、藤前干潟では、多い年には1万羽を超える群れが観察される。潜水してゴカイなどを食べる。
ダイサシギ 羽長30cmの小形のシギの仲間。藤前干潟には、主に春と秋の渡りのシーズンに飛来する（一帯には越冬するものもいる）。大きく下に面がったタテハシが特徴で、このタテハシを使って空を飛ぶ。	カンムリカイツブリ 羽長47cmの大形のあいつブリの仲間。藤前干潟には秋に渡ってきて翌年の春まで越冬する。その名のおおむらぎをよぶことよな顔の顔の特徴。潜水が得意で、水中に潜って餌などを捕らえる。
コアジサシ 羽長29cmの小形のアジサシの仲間。藤前干潟には秋に渡ってきて翌年の春まで越冬する。藤前干潟周辺では小羽が飛び交ったような音を立てて、主にカワウやミサゴと混群する。	カワウ 羽長38cmのウの仲間。藤前干潟では1年を通じて観察することが出来る。こもるを飛ばしており、空待ちはハンパにして強いを定め、飛前に足からついで強い飛ぶ音を発する。
ミサゴ 羽長25cmのウの仲間。藤前干潟では1年を通じて観察することが出来る。こもるを飛ばしており、空待ちはハンパにして強いを定め、飛前に足からついで強い飛ぶ音を発する。	カワウ 羽長38cmのウの仲間。藤前干潟では1年を通じて観察することが出来る。こもるを飛ばしており、空待ちはハンパにして強いを定め、飛前に足からついで強い飛ぶ音を発する。



(宛名面)

藤前干潟について

藤前干潟は名古屋港のなかにあって、広さは春の大潮の干潮のときで約180ヘクタールにもなります。伊勢湾の最奥部にあり、庄内川、新川、日光川の3つの川の河口部に位置しています。

シギやチドリ、カモ類など、渡り鳥たちの大切な中継地、餌場となっており、干潟の泥のなかには、それら鳥たちのエサとなるカニやゴカイ、アナジャコ、ヤマトシジミなどがたくさん生息しています。

藤前干潟は、かつてゴミの最終処分場予定地として埋め立ての危機にありましたが、多くの市民の保全活動によって1999年に計画は中止。保全されることとなりました。

その後、2002年11月に、世界で1200番目、日本で12番目のラムサール条約登録湿地となりました。

※ラムサール条約：干潟や湖沼など湿地を保全するための国際条約

NPO法人 藤前干潟を守る会について

NPO法人 藤前干潟を守る会は、藤前干潟を名古屋市のゴミ処分場計画から守るために、1987年に活動を開始。その後、1999年の計画中止と保全確定を経て、2002年のラムサール条約登録を期に、2003年にNPO法人格を取得しました。

NPO法人 藤前干潟を守る会は、藤前干潟の保全の歴史。そこに見える環境保全へのメッセージを多くの人に伝え、藤前干潟とその流域、生物多様性を保全する活動を展開しています。

藤前干潟をフィールドとした観察会（干潟の学校）をはじめ、小学校など団体を対象とした干潟のガイド（干潟体感学習）、藤前干潟のボランティアガイドである「ガタレンジャー」の養成や、こども向け環境学習プログラムである「ガタレンジャー」などの活動を展開しています。

また、2005年に環境者がオープンした藤前干潟の学習施設（福永ビジターセンターと藤前活動センター）の管理・運営も行っていきます。

POST CARD

切手貼付欄

□□□□□□□□

POST CARD

切手貼付欄

□□□□□□□□



●オリジナルシール
(ハマシギ)



(野鳥)

